

まとめ

丘陵平坦面に近い斜面の上方は段状遺構が多く分布し、斜面中腹付近には竪穴住居跡も見つかります。斜面下方にも傾斜が緩やかな場所に段状遺構が造られていました。

妻木新山遺跡4区は南向きの斜面地で日当たりが良く、谷側の湧水地も近いことから好条件の立地といえます。丘陵平坦面が居住域として利用されていた期間は、斜面部も広く利用されたのではないのでしょうか。

第39発掘調査（第35、36次発掘調査で確認した遺構も含む）

確認した遺構：竪穴住居跡1棟、段状遺構15基、貯蔵穴2基

第40次発掘調査

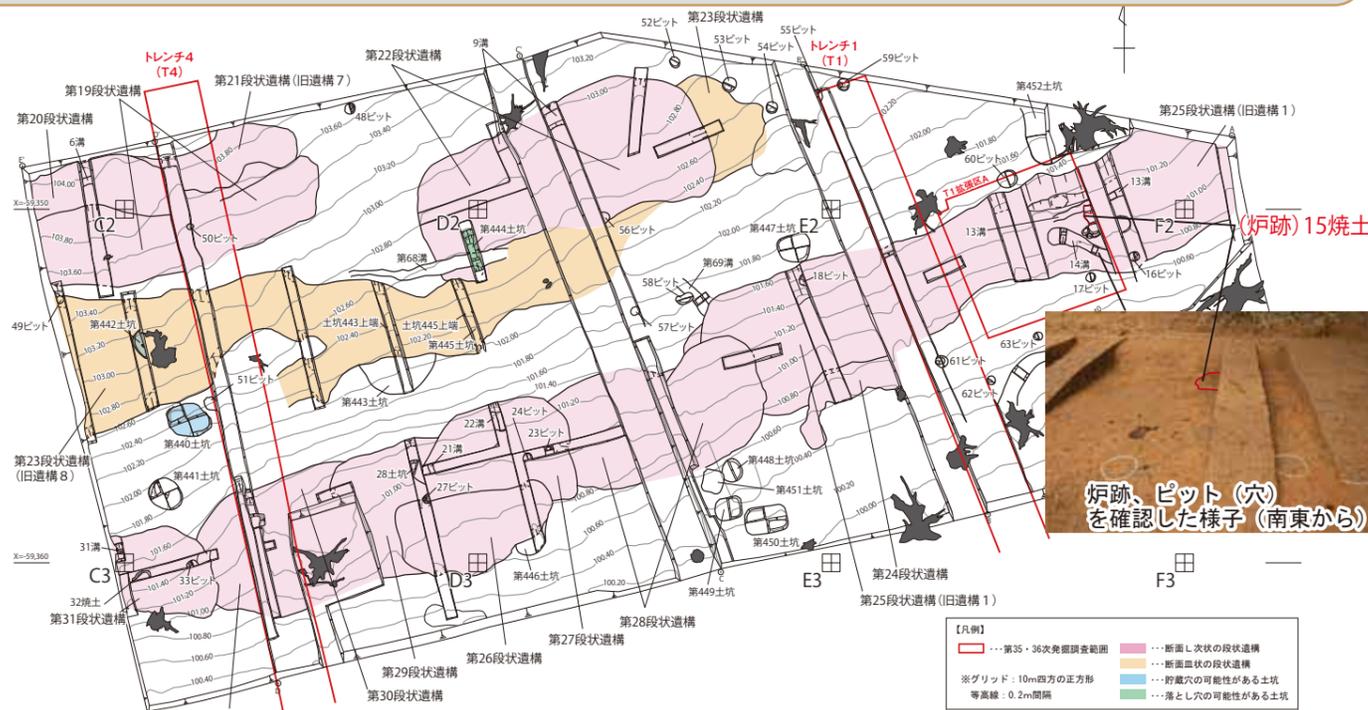
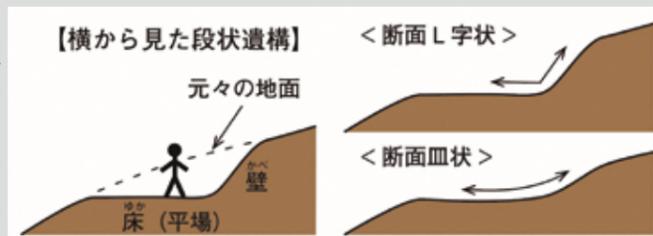
確認した遺構：段状遺構4基

段状遺構

段状遺構は一定の標高に沿って帯状に分布。断面形状等から2種類。

段状遺構A(薄赤色): 丘陵基盤層を削って平坦面を設けており、断面形はL字状を呈す。平面形は帯状や不整半円形など。貼床、浅い溝、ピット、炉跡を伴う。

段状遺構B(薄黄色): 遺構の中央に向かって窪み、断面形は皿状を呈す。平面形は帯状で、途中で分岐している。9か所の断面で同じ堆積状況を確認。溝や貼床、炉跡などは伴わない。



第39次発掘調査全体図



鳥取県立むきばんだ史跡公園
〒689-3324 鳥取県西伯郡大山町妻木 1115-4
電話 0859-37-4000 / ファクシミリ 0859-37-4001
史跡公園ホームページ <https://www.pref.tottori.lg.jp/mukibanda/>
史跡公園 Facebook <https://www.facebook.com/Mukibanda/>

国史跡妻木晩田遺跡

第40次発掘調査現地説明会資料

～妻木新山地区4区の調査成果～

鳥取県立むきばんだ史跡公園では、妻木晩田遺跡の実態を解明するため、令和元年度から集落の形成・展開期（弥生時代後期前葉～中葉<1世紀後半～2世紀前半頃>）の集落像を解明するため、妻木新山地区4区（南側斜面部）の発掘調査を行っています。

妻木新山地区は、妻木晩田のムラが拡大して洞ノ原墳丘墓群や洞ノ原地区の環壕が掘られた時期（弥生時代後期前葉：1世紀後半）にムラの中心だった地区です。

平成7～10年に実施した第1次発掘調査の際に丘陵上の平坦面で竪穴住居跡などが多数発見され、令和元・2・4・5年度に実施した発掘調査により同時期の遺構（段状遺構や土坑など）が斜面部にも広がっていることがわかりました。

第35次発掘調査（トレンチ調査）
調査期間 令和元年8月19日～10月28日
調査面積 109㎡

第36次発掘調査（トレンチ調査）
調査期間 令和2年8月24日～11月8日
調査面積 156㎡

第39次発掘調査
調査期間 令和4年5月30日～9月6日
調査面積 500㎡

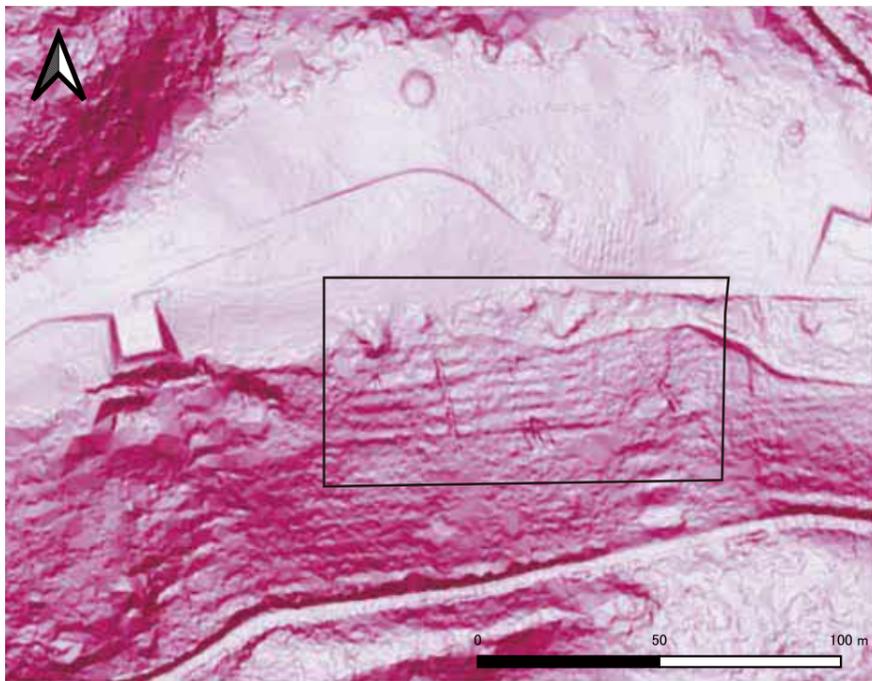
第40次発掘調査（トレンチ調査）
調査期間 令和5年5月15日～7月14日（予定）
調査面積 140㎡



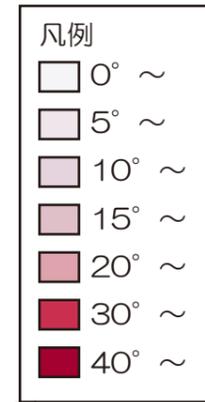
史跡指定範囲及び発掘調査地位置図



発掘調査地位置及び周辺の過年度調査遺構分布図



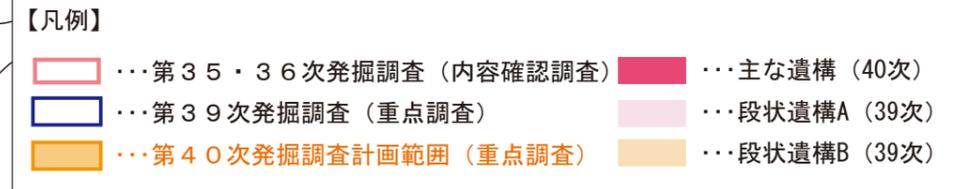
発掘調査区周辺傾斜区分図



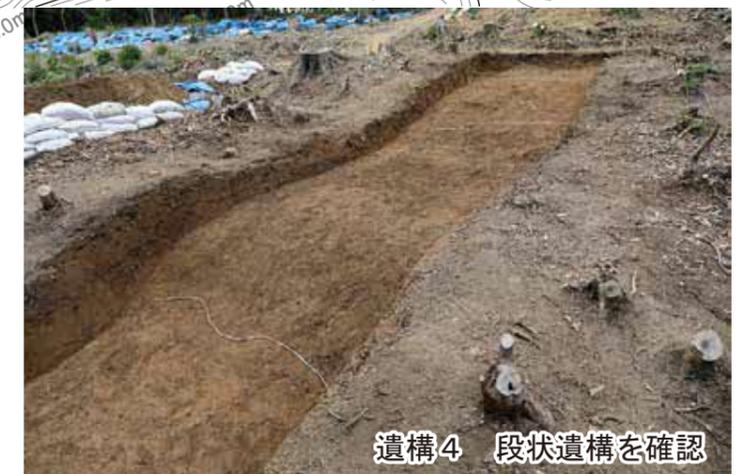
第39次発掘調査区西側調査状況 (南東から)



空撮 (東から)



史跡 妻木晩田遺跡第39・40次発掘調査区



遺構4 段状遺構を確認